

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## 関係代名詞の使用と省略について

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部</p> <p>公開日: 2016-09-05</p> <p>キーワード (Ja):</p> <p>キーワード (En):</p> <p>作成者: 井戸垣, 隆</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 関西外国語大学短期大学部</p>
URL	<a href="https://doi.org/10.18956/00006326">https://doi.org/10.18956/00006326</a>

## 関係代名詞の使用と省略について

井戸垣 隆

### はじめに

本稿の目的は、関係代名詞の「使用と省略」に関して英語文の実例を調査し、その結果（使用率、省略率等）と日本人学生の書く英語作文とを比較検討していくことにある。使用する英語文の調査対象は、*Newsweek* および映画の SCRIPT とする。*Newsweek* は2002年4月22日号から6月3日号までの7週分を使用し、映画のSCRIPTはスクリーンプレイ出版株式会社発行の以下の12冊、『スピード』『推定無罪』『ミセス・ダウト』『ミッション・インポッシブル』『評決』『レインマン』『JFK』『ゴースト』『逃亡者』『13デイズ』『ウォール街』『マーヴェリック』を使用する（ただし、台詞の部分のみを対象とし、ト書き等は除外する）。*Newsweek* はニュース記事や説明文を中心とする「書き言葉」を、映画のSCRIPTは会話を中心とする「話し言葉」<sup>1)</sup>を調べることを狙いとし、これら2つにおける違いにも注目をしたい。

日本人学生の被験者は、筆者が2002年6月～7月に調査を行った関西外国語大学外国語学部および短期大学部の学生455名とする<sup>2)</sup>。関係代名詞の習得に関しては、これまで多くの研究がなされており、中でも、伊藤彰浩『共時的アプローチによる英語関係節の習得研究』（2001）には、「英語関係節の産出におけるハミルトン仮説の妥当性」などの優れた論文が収められ、様々な観点から EFL learners としての日本人の関係節習得に関する問題が論及されている。本稿では、習得理論については特に触れず、日本人学生が、与えられた日本語文に対して書く英語文の分析、というものに限定したアプローチを行っていくこととする。

### I

一般的に、関係代名詞は、先行詞が「人間」の場合は who あるいは that を、先行詞が「人間以外」（以下、単に「物」とする）の場合は which あるいは that を使用する、とされている<sup>3)</sup>。また、「主格」では一定の条件（後述）を除き普通省略されないが、「目的格」の場合は「前置

詞＋関係代名詞」や非限定用法等の場合を除いて省略することができるとされている。ここでは、文法書や学習参考書等に示されているようなり、どのような場合にどの関係代名詞を使うべきか、といったことについての理論的な考察よりも、実際にどれが使用され、また省略されているかを重点的に見ていくこととする。なお、今回の調査では、限定用法の「主格」と「目的格」に絞ることとし、非限定用法ならびに、「所有格」や「前置詞＋関係代名詞」は、別の機会にゆずることとしたい（ただし、最後で関連したことに少し言及する）。また、一般的に「強調構文」と呼ばれる、it is/was ～ that ... の分裂文 (cleft sentences) は、今回は調査の対象からは除外した（たとえば、It is Tom that broke the window. のような文における that は who に置き換えることができるが、この場合の that は接続詞か関係代名詞かといった問題が残るため）。

まず、先行詞が「人間」を表す場合から見ていくことにする。表1は、*Newsweek* と映画のスク립トにおいて、関係代名詞使用と省略の場合とを「主格」「目的格」別に分類したものである。

表1 先行詞が「人間」の場合

	関係代名詞	<i>Newsweek</i>	映画のスク립ト
主格	who	370 (98.9%)	101 (77.1%)
	that	2 (0.5%)	20 (15.3%)
	省略	2 (0.5%)	10 (7.6%)
	計	374 (100%)	131 (100%)
目的格	who	1 (2.9%)	0 (0.0%)
	that	1 (2.9%)	4 (9.1%)
	省略	32 (94.1%)	40 (90.9%)
	計	34 (100%)	44 (100%)

*Newsweek* において、限定用法の関係代名詞節は全部で1316例あった。先行詞が「人間」の場合が408 (31.0%)、「物」の場合が908 (69.0%)であった。「人間」の場合、374 (91.7%)が「主格」として、34 (8.3%)が「目的格」として使われていた。「主格」の場合は、ほぼ全てを占める370 (98.9%)が who を使用しており、that の使用はわずか2 (0.5%)で、省略は2 (0.5%)であることが判明した。「目的格」では32 (94.1%)が省略されており、who の使用が、1 (2.9%)、that の使用が1 (2.9%)であった。注目すべきこととして、文法的に「目的格」として存在しているはずの whom の使用は皆無であった（これは後に述べる日本人学生の英語作文における使用例とは大きく異なっている）。

映画のスク립トに関して、限定用法の関係代名詞節は 556 例あり、そのうち、先行詞が「人間」の場合は 175 (31.5%)、「物」の場合は 381 (68.5%) であった。「人間」が先行詞の場合、「主格」が 131 (74.9%)、「目的格」が 44 (25.1%) で、*Newsweek* よりも「目的格」の割合が上がっていた（次に述べる「物」では、違いがさらに顕著になる）。

「主格」では *who* が 101 (77.1%) と多くを占めていたが、*Newsweek* と対照的に、*that* が使われる例が 20 (15.3%) あった。「会話」では「書き言葉」より *that* がやや多く使われることが示されているようである。省略は 10 (7.6%) で割合から言えば、*Newsweek* よりは多くなっていた。

「目的格」の場合は、*that* が 4 (9.1%)、省略が 40 (90.9%) で、省略の割合はやや *Newsweek* よりも低くなっていた。また、*who* および *whom* とともに使用はゼロであった。

ここで、先行詞が「人間」で、*that* が使われた場合の例をいくつかあげておく。

- (1) You know my favorite joke about the guy **that** falls off the edge of the Grand Canyon?  
(*Newsweek*, April 29, 2002, p. 41)
- (2) "There used to be a great pursuit for the holy grail of a recording contract, but the companies haven't really delivered for most artists **that** get signed to them," says Peter Spellman, who wrote "The Self-Promoting Musician," one of an increasingly popular genre of do-it-yourself guides to becoming a pop star. (*Newsweek*, June 3, 2002, p. 36)
- (3) Nazir Master, a 50-year old schoolteacher from Jawan Nagar who hid in his rooftop bathroom during the attack, says: "How can I go home when I saw my Hindu neighbors — students **that** I myself had taught — raping and killing our village girls?" (*Newsweek*, April 22, 2002, p. 27)
- (4) Everybody **that** I know thinks of Harold Greer as a top grade cop. (『推定無罪』 p. 79)
- (5) Why am I the only one **that** feels there has to be rules? (『ミセス・ダウト』 p. 17)
- (6) Who says I'm the one **that** called it off? (『評決』 p. 45)
- (7) Everybody **that** was in the operating room is testifying! (『評決』 p. 98)
- (8) You know there's no one in the world **that** can count into a six deck shoe. (『レインマン』 p. 100)
- (9) One likes friends **that** have friends. (『JFK』 p. 45)
- (10) You see, this one here says, "Mercer could not identify any of the photographs as being identical with the person **that** she had observed slouched over the wheel of the green Ford pickup truck." (『JFK』 p. 69)
- (11) Is that the guy **that** killed his wife? (『逃亡者』 p. 132)

- (12) I think I have some friends **that** won't mind makin' some easy money. (『ウォール街』 p. 67)
- (13) I know we may never see each other again, so I think it's safe to say that...you are the most blindingly attractive man **that** I've ever seen. (『マーヴェリック』 p. 19)
- (14) That's one gambler **that** won't be able to touch a deck of cards this side of Mississippi. (『マーヴェリック』 p. 115)

先行詞に特別な修飾語は付いていないものや、the only や最上級の形容詞がついたもの、また、everybody が先行詞となっているものなどが見られた。しかしながら、*Newsweek* および映画の SCRIPT を通して、最上級の形容詞などの修飾語が付いていても **who** が使われる例が多く、先行詞の修飾語によって関係代名詞が影響を受けていると言うことはできなかった。続いて、「主格」が省略された例をあげる。

- (15) Even from a sociological or psychological point of view, one would feel more comfortable discussing marital problems or familial issues with someone  $\wedge$  you assume has shared some of those same experiences. (*Newsweek*, May 6, 2002, p. 39)
- (16) Golden put out a nationwide call to the more than 15,000 artists  $\wedge$  she says work in the "Black Romantic" manner. (*Newsweek*, May 13, 2002, p. 54)
- (17) Oh, you're the — you're the one  $\wedge$  they said was a nurse? (『評決』 p. 107)
- (18) There's some Americans  $\wedge$  were trained there too, a few, Nazi types, mercenaries. (『JFK』 p. 42)
- (19) I think Mr. O'Keefe must have seen someone  $\wedge$  he thought was Lee Oswald. (『JFK』 p. 119)
- (20) Sam, there's some guy on line three  $\wedge$  claims he's Richard Kimble. (『逃亡者』 p. 98)
- (21) They stopped the ones  $\wedge$  we suspect have weapons aboard. (『13デイズ』 p. 120)

「主格」が省略されたのは、いずれの例も、文法参考書等にあるように<sup>5)</sup>、先行詞の直後に she says や he thought などが挿入されている場合や、there is/are の構文の場合であった。合わせて、「目的格」で **who** が使われた例をあげておく。

- (22) The man **who** I was just chatting to used to be my guard. (*Newsweek*, May 27, 2002, p. 8)

*Newsweek* および映画の SCRIPT を通じて、唯一使用されたこの **who** の例は、動詞の目的

語としてではなく、前置詞 to の目的語になっているものであった。今回は調査対象外ではあったが、The man to whom I was just chatting ～ のような「前置詞＋関係代名詞」と前置詞を動詞の後に置く場合の比率等に関しては今後の課題としていきたい。

## II

次に、先行詞が「物」の場合について見ていく。表2は、*Newsweek* と映画のスク립トにおける、which 使用、that 使用、および省略を「主格」「目的格」別に分類したものである。

表2 先行詞が「物」の場合

	関係代名詞	<i>Newsweek</i>	映画のスク립ト
主格	which	11 (1.8%)	10 (10.1%)
	that	589 (97.4%)	86 (86.9%)
	省略	5 (0.8%)	3 (3.0%)
	計	605 (100%)	99 (100%)
目的格	which	0 (0.0%)	6 (2.1%)
	that	89 (29.4%)	64 (22.7%)
	省略	214 (70.6%)	212 (75.2%)
	計	303 (100%)	282 (100%)

*Newsweek* において、先行詞が「物」の場合は、908例中、「主格」が 605 (66.6%) で、「目的格」が 303 (33.4%) であった。「主格」では、that が 589 (97.4%)、which が 11 (1.8%)、省略は 5 (0.8%) であった。which の使用が極めて少ないことが注目される（このことに関しても、後述の日本人学生の場合とは大きな対比をなしている）。

「目的格」においては、that が 89 (29.4%) の使用で、214 (70.6%) において省略されており、which の使用はゼロであるということが判った。

今回の調査で特に判明させたいと考えていたことであるが、「目的格」を表す関係代名詞の先行詞が、主節において、「主語」「目的語」「補語」あるいは「名詞文（表題や同格を表している場合）」のどれにあたるかを見てみるとやや興味深い事実が明らかになった。先行詞が、主節において「主語」の場合は、52 あり、that の使用は 9 (17.3%) であったのに対し、省略は 43 (82.7%) という結果であった。「目的語」の場合は、193 のうち、that が 60 (31.1%) で、省略は 133 (68.9%) であった。「補語」の場合は 32 のうち、that が 9 (28.1%)、省略が 23 (71.9%) であった。「名詞文」では、26 のうち that が 11 (42.3%)、省略が 15 (57.7%) であった。

つまり、先行詞が、主節において「主語」の場合に、より多く省略されているということが判明した。

映画の SCRIPT では、先行詞が「物」の場合、381 例中、「主格」は 99 (26.0%) であったのに対して、「目的格」は 282 (74.0%) であった。*Newsweek* では「目的格」が約 3 割であったが、映画の SCRIPT では約 7 割が「目的格」ということも判った。先行詞が「人間」の場合は、*Newsweek* および映画の SCRIPT とともに「主格」として使用されることが多かったが、「物」の場合は、「書き言葉」と「話し言葉」で、関係代名詞の「主格」と「目的格」の使用の割合がこれほどまでに対をなしているということは注目に値する。「主格」では、that が 86 (86.9%) で、which が 10 (10.1%) あった。「目的格」では、that が 64 (22.7%) で、which が 6 (2.1%)、省略が 212 (75.2%) という結果であった。which に関して、数は *Newsweek* とほぼ同じであるが、割合から見れば、*Newsweek* が 1.8% であったのに対して、10.1% と、割合的には非常に高くなった。しかしながら、which の使用された映画は、『スピード』『評決』『JFK』『ゴースト』および『13デイズ』に限られており、中でも『JFK』が、「主格」5、「目的格」5 と多くを占める結果となっていた<sup>6)</sup>。

ここでも、*Newsweek* の場合と同様に、「目的格」を表す関係代名詞の先行詞が、主節において、「主語」「目的語」「補語」「名詞文」の場合はどうなっているかを見ることにする。先行詞が、主節において「主語」の場合は、80 のうち、that 使用が 8 (10.0%) に対して、省略は 72 (90.0%) と、*Newsweek* の場合よりも「主語」において省略される割合がより高いことが判った。「目的語」の場合は、127 のうち、that 使用は 39 (30.7%) で、省略は 88 (69.3%) であった。「補語」の場合は、40 のうち that 使用が 6 (15.0%)、省略が 34 (85.0%)、「名詞文」では、29 のうち that 使用が 11 (37.9%)、省略が 18 (62.1%) という結果となった。「目的格」の関係代名詞は省略されることが多いということと合わせて、特に、先行詞が主節において「主語」の場合に、*Newsweek* と同様、より省略される割合が高い傾向にあることが示された。

ここで、which が使われた例をいくつかあげておく。

- (23) "Sins of the Fathers" succinctly brought to light the corruption and degradation of certain religious institutions **which** hide behind a façade of religious piety. (*Newsweek*, April 22, 2002, p. 8)
- (24) We should engage in a search **which** includes Russia and Iran. (*Newsweek*, April 22, 2002, p. 34)
- (25) "The classic Catholic view is that sexual love within the bond of marriage is intended to deepen the communion of the spouses — a communion **which** gives birth to new life," says George Weigel, the distinguished biographer of John Paul II. (*Newsweek*, May 6,

- 2002, p. 36)
- (26) The conditions **which** gave birth to the genre have disappeared. (*Newsweek*, May 6, 2002, p. 49)
- (27) The FBI and the DIA believe the main objective of the club is to develop software tools **which** can then be used by other Islamic groups to attack Western targets. (*Newsweek*, May 20, 2002, p. 2)
- (28) No specific research has been done on them, a fact **which** has only served to heighten my fears. (*Newsweek*, May 20, 2002, p. 6)
- (29) We would like to thank the whole *Newsweek* team for the optimistic view **which** cast a new light on our now not-so-dim future. (*Newsweek*, May 20, 2002, p. 6B)
- (30) “The mass rapes tend to suggest that there is a dark area of male sexuality **which** can emerge all too easily in war where there are no social or disciplinary restraints,” he writes. (*Newsweek*, May 20, 2002, p. 33)
- (31) Apparently...a revolver **which** was found on Oswald. (『JFK』 p. 15)
- (32) The Trade Mart **which** I founded is America’s commercial pipeline to Latin America. (『JFK』 p. 87)
- (33) Or is he merely saving the information **which** will gain for him exposure at a national level? (『JFK』 p. 91)
- (34) We are all travelers on the same road **which** leads to the same end. (『ゴースト』 p. 31)
- (35) You’ve signaled an escalation **which** I had no wish to signal and **which** I did not approve. (『13デイズ』 p. 122)

続いて、「主格」が省略された例をあげておく。

- (36) Gibraltar is the last colony left in Europe and is no longer the strategic point <sup>Λ</sup> it used to be. (*Newsweek*, May 6, 2002, p. 13)
- (37) But it’s not the only thing <sup>Λ</sup> I am. (*Newsweek*, May 6, 2002, p. 35)
- (38) Even London, which has long resisted the intrusion of tall buildings into its Financial District, has now conceded that the sky is the only place to put the 12 million square feet of new office space <sup>Λ</sup> planners say are needed. (*Newsweek*, May 27, p. 49)

(36) と (37) では、「関係代名詞が補語」という条件<sup>7)</sup>のもとに「主格」が省略されている。



## III

次に、日本人学生の英語作文について見ていくこととする。筆者が行った調査は、日本人学生に日本語文を与え、それを英語に訳させて、どの関係代名詞を使用するか、あるいは、省略するかを見ようとするものである。与えた日本語文は、先行詞が「人間」あるいは「物」で、関係代名詞の「主格」か「目的格」を使わせるようなものとし、かつ、先行詞が主節において、それぞれ、「主語」、「目的語」、あるいは「補語」となるようなものとした。また、できるだけ与える日本語文が単純なものとなるよう努め、基本文には、先行詞に最上級の形容詞などの特別な修飾語が付かないものを使用することにした（ただし、試みとしては、修飾語が付くものも与えたが、「主語」「目的語」「補語」全てのケースを書かせるには、分量が膨大なものになってしまうこともあり、今回は「補語」になるもののみを扱っている）。

以下共通することであるが、今回の調査では関係代名詞の「使用と省略」に焦点を当てたため、たとえば、つづり字の誤りがあったり、三人称単数の -s が落ちていたり、時制が日本語文とは違っていても、不正解とはせずに、関係代名詞構造の部分を中心として見ていくこととする。

表3 先行詞が「人間」の場合

	関係代名詞	先行詞が主語	先行詞が目的語	先行詞が補語
主格	who	362 (79.6%)	409 (89.9%)	392 (86.2%)
	that	5 (1.1%)	7 (1.5%)	10 (2.2%)
目的格	who	101 (22.2%)	112 (24.6%)	44 (9.7%)
	whom	77 (16.9%)	151 (33.2%)	95 (20.9%)
	that	19 (4.2%)	40 (8.8%)	38 (8.2%)
	省略	91 (20.0%)	48 (10.5%)	35 (7.7%)

まず、先行詞が「人間」で関係代名詞が「主格」の場合から見ていく。

「私に道を教えてくれた人は非常に親切でした」（先行詞が主節の主語）という日本語を英語に訳させたところ、次のような結果となった。The man who showed me the way was very kind. といったように、who を使用した者は 362 人 (79.6%) で、that を使用した者は 5 人 (1.1%) であった（調査とは別次元のことであるが、関係節の動詞に taught を使った者が多くおり、「道を教える = teach 人 the way」という言い方をしてしまうのは日本語表現の影響であると考えられる）。また、The man showed me the way was very kind. (非文) のように「主格」を省略した形で書いた者が 13 人 (2.9%) いた。学生に与えた指示が関係代名詞節を強制的に使

わせるようなものではなかったため、The man showed me the way and he was very kind. のような文にした者も見られた。その他、以下共通のことであるが、文法的に正しいとみなされる文や逸脱した文も多く存在した。調査方法として、今回は日本語文を与えただけの「自由英作文（英訳文）」としたが、今後は、2文をつながせる、かっこに関係代名詞を入れさせる（cloze test）、あるいは、選択させる方法ではどうなるかなども検討していかなければならないと考えている。

「私はイギリスに行ったことがある人を数人知っています」（先行詞が主節の目的語）という日本語文では、I know some people who have been to England. のように who を使った者は、409人（89.9%）で、that を使用した者は、7人（1.5%）であった。

「ビリーは野球が大変好きな少年です」（先行詞が主節の補語）に関しては、Billy is a boy who likes baseball very much. のように who の使用が392人（86.2%）、that が10人（2.2%）であった。いずれにしても、先行詞が「人間」で「主格」の場合は who の方が多く使われるということが判った。一応、Newsweek や映画のスク립トと共通していると見受けられる。

次に、先行詞が「人間」で「目的格」の場合について見ていくことにする。

「私が今朝電車で見えた人は大きなかばんを2つ持っていた」（先行詞が主節の主語）という文の英語訳では、多少、英語に訳すには複雑な日本語であったのか、I saw a man who had two large bags. というような構造の文にした者が133人（29.2%）いた（もちろん、このような文は与えられた日本語文の構造とは異なっているので、今回の調査の who 使用者には含めていない）。しかしながら、ここで、興味深い結果が得られた。The man whom I saw on the train this morning had two large bags. のように、whom を使用した者が（Newsweek や映画のスク립トでは皆無であったが）、77人（16.9%）いたことが判明した。また、The man who I saw ~ のように who を使用した者は whom をやや上回って、101人（22.2%）おり、that の使用者は19人（4.2%）であった。そして、The man I saw ~ のように関係代名詞を省略した者が91人（20.0%）いた。

「昨日私は私の母がよく知っている隣人に会った（隣人：neighbor）」（先行詞が主節の目的語）という文の英語訳では、Yesterday I met a neighbor whom my mother knows well. のように、whom を使用した者は、さらに増加して、151人（33.2%）となっていることが判明した。who の使用者は112人（24.6%）で、that は40人（8.8%）、省略した者は48人（10.5%）であった。

「ブラウン氏は皆が尊敬する先生です」（先行詞が主節の補語）では、Mr. Brown is a teacher whom everyone respects. のように whom を使用した者が95人（20.9%）で、who は44人（9.7%）、that は28人（6.2%）で、省略は35人（7.7%）であった。また、Mr. Brown is a teacher who is respected by everybody. というような構造の文にした者も140人（30.8%）いた。

「目的格」に関して、先行詞が主節の「主語」の場合は、whom よりも who の方が多く使われ、「目的語」と「補語」の場合では who よりも whom の方が多く使われるという逆転現象が起きていた。また、省略に関しては、先行詞が主節の「主語」の場合に最も割合が増えたことも特徴としてあげられる（しかしながら、*Newsweek* や映画のスク립トの場合、先行詞が「人間」で「目的格」のときはほとんどが省略されているため、比較の対象とすることはできなかった）。

ここで、注目すべきことを述べる。先行詞に特別な修飾語が付いた場合にどう変わるかを調べる試みとして、「ボブは私がこれまで出会った中で一番背の高い少年です」という日本語を英語に訳させたところ、Bob is the tallest boy that I have ever met. のように that を使用した者が 90 人 (19.8%) いたことが判明した。この数字は先行詞が「人間」の場合で、that が使用された中で最も高いものとなった。whom は、53 人 (11.6%)、who は、71 人 (15.6%)、省略は、175 人 (38.5%) であった。*Newsweek* や映画のスク립トにおける結果とは違って、日本人学生の場合は先行詞の特別な修飾語等が関係代名詞の使用に大きく影響を及ぼしているものであると考えられる。多くの参考書等が「先行詞が最上級の形容詞や、first、only、very などによって修飾されている場合は、that を比較的好く用いる」<sup>8)</sup>旨の説明をしているが、それを忠実に実行しているように見受けられる（今後は、学習参考書等の記述や英語教育の現場において、*Newsweek* 等の身近な英語文使用の実例をもっと反映させるべきかどうかに関して検討していかなければならないであろう）。

#### IV

続いて、先行詞が「物」で関係代名詞が「主格」の場合について見ていくこととする。

表 4 先行詞が「物」の場合

	関係代名詞	先行詞が主語	先行詞が目的語	先行詞が補語
主格	which	151 (33.2%)	319 (70.1%)	287 (63.1%)
	that	73 (16.0%)	54 (11.9%)	45 (9.9%)
目的格	which	191 (42.0%)	162 (35.6%)	278 (61.1%)
	that	68 (14.9%)	70 (15.4%)	92 (20.2%)
	省略	107 (23.5%)	41 (9.0%)	64 (14.1%)

「昨日起こった火事は新聞で報道された」（先行詞が主節の主語）という日本語文に対して英語訳させたところ、無解答も少し見られ、また語句のヒントも与えなかったためであろうか、

文章を完成することができなかった者もいた（また、参考として、関係節の動詞に happen を使う例が多かったが、これは「起こる = happen」と記憶していることによる影響と考えられる）。The fire which took place yesterday was reported in the newspaper. のように、which を使用した者が 151人 (33.2%) おり、that を使用した者の 73人 (16.0%) を大きく上回っていた。Newsweek や映画のスク립トと比較してもかなり高い数字である。

「私はたくさんの機能を持つ携帯電話が欲しい（携帯電話：cell phone 機能：features）」という日本語文では、I want a cell phone which has many features. のように which を使用した者が、319人 (70.1%) もいた。that 使用は 54人 (11.9%) であった。～ with many features のような形にした者も 40人 (8.8%) いた。

「これは大きなディスプレイを持つコンピュータです（ディスプレイ：VDU, visual display unit）」の場合は、This is a computer which has a large VDU. のように which を使用した者は 287人 (63.1%)、that は 45人 (9.9%) であった。～ with a large VDU のようにした者は 40人 (8.8%) であった。

いずれにしても、日本人学生の場合、先行詞が「物」で「主格」の関係代名詞は、that よりも which の方がより多く使用されているということが判った。

次に、「目的格」の例を見ていくことにする。

「トムが私にくれた本は大変役に立つ」（先行詞が主節の主語）に関しては、The book which Tom gave me is very useful. のように which を使用した者が 191人 (42.0%)、that が 68人 (14.9%) であったが、省略した者が 107人 (23.5%) いた。

「今私は皆がよく知っている小説を読んでいるところです」（先行詞が主節の目的語）では、Now I'm reading a novel which everybody knows well. のように which を使用した者が 162人 (35.6%)、that が 70人 (15.4%)、省略が 41人 (9.0%) という結果となった。

「これは私が去年ニューヨークで買ったネクタイです」（先行詞が主節の補語）については、This is the tie which I bought in New York last year. のように which を使用した者が 278人 (61.1%) で、目的格の中では一番高い数字となった。that の使用は 92人 (20.2%)、省略は 64人 (14.1%) であった。

関係代名詞が「目的格」の場合も、全てにわたって、which が that よりも多く使われているということが判った。また、先行詞が主節における「主語」の場合は、「人間」の場合と同様に、関係代名詞の省略率が最も高くなっていた。このことは、Newsweek と映画のスク립トにおける、先行詞が「物」で「目的格」の場合の省略と共通しているという結果となった。

「人間」の場合と同じく、先行詞に特別な修飾語が付くときはどうなるかを見るために、「これは私が今まで読んだ中で一番面白い本です」という日本語文を英語に訳させたところ、This is the most interesting book that I have ever read. のように that を使用した者が 112人

(24.6%) で、which 使用は 103 人 (22.6%) というように、that が which を上回るという結果となった。また、省略が 187 人 (41.1%) で、最も多いものとなっていた。先行詞に最上級の形容詞が付くと、「人間」の場合と同様に、that 使用が増えるとともに、省略がさらに多くなるというのは興味深いことである。今後は先行詞の修飾語による影響についても調べていかなければならないと考えている。

## おわりに

今回の調査で、*Newsweek* や映画のスク립トでは、「人間」が先行詞の場合は、「主格」では主に who が使われ、「目的格」ではたいてい関係代名詞は省略されるということ、また、「物」が先行詞の場合は、「主格」では主に that が使われ、「目的格」では 2～3 割程度が that の使用で、他はほとんどが省略されるということが判明した。また、「目的格」での省略率は、先行詞が「物」のとき、特に先行詞が主節において「主語」の場合により高くなるということも確かめられた。一方、日本人学生に関しては、先行詞が「人間」の場合、「主格」ではたいてい who を使用するが、「目的格」の場合は whom を使用する者が平均で約 24% いるということが判った（ただし、最上級の形容詞が付いた先行詞の場合は that の使用も増える）。*Newsweek* や映画のスク립トでは実際には使用されていない whom が、日本人学生の間でこれほど使われるというのは興味深いことであるし、中・高等学校の英語教育や学習参考書等の影響も考えていかなければならないであろう<sup>9)</sup>。さらに、日本人学生に関して、先行詞が「物」の場合は、that よりも which が使われることが多いことが判った（ただし、先行詞の修飾語によって逆転する場合もある）。また、日本人学生の関係代名詞の省略率に関しては、「人間」「物」ともに、先行詞が主節における「主語」である場合に最も高いということが判明したが、このことは *Newsweek* や映画のスク립トにおける先行詞が「物」の場合と共通しているという結果となった。

ここで、日本人学生に参考として書かせた英語文に関して、いくつかの点を述べておきたい。「所有格」に関して、面白い結果が得られた。「私にはお父さんがパイロットの友達がいる」という日本語文を訳させたところ、376 人 (82.6%) が、I have a friend whose father is a pilot. のように、きちんと whose を使って書くことができていた。しかし、「ジョンはカバーが赤い本を持っていた」では、John had a book whose cover was red. のように whose を使用して書いた者は、120 人 (26.4%) のみであった。しかも、文法的であるはずの、John had a book the cover of which was red. はゼロであり、of which cover (非文とみなされている) が、4 人 (0.9%) で、of which the cover もゼロであった。John had a book with a red cover. のようにした者が、48 人 (10.5%) いたが、John had a book which cover was red. (非文) も 89 人 (19.6%) い

たことにも注意を払わなければならない。さらに、「私が友達と思っていた人が私をだました（だます = deceive）」では、The person who I thought was my friend deceived me. の構造の文を書いていたものは 21人 (4.6%) であった。～ whom I thought was ～ としたものは、5人 (1.1%) であった。

「前置詞＋関係代名詞」および関係副詞について調べる目的で「これは彼が住んでいる家です」という日本語を英語訳させたところ、This is the house which he lives in. のようにした者が、100人 (22.0%) と最も多く、in which he lives は 39人 (8.6%)、that he lives in が、19人 (4.2%)、This is the house he lives in. が 81人 (6.8%) であった。そして、This is the house where he lives. とした者が 85人 (18.7%) という結果となった。This is the house which he lives. (非文) とした者も見受けられた。

最後に、今後の課題として、英語文の実例の調査に関しては、論文、小説、さらにインターネット等で使われている英語文へも幅を広げ、また、日本人学生の英語文に関しても、習熟度別の調査や、個人レベルにおける分析（「作文」と「スピーチ」における違い等）といった様々な角度から検討を加えていきたい。

## 注

- 1) 前書きに「映画のすべてのセリフを、可能な限り正確に英文化しています」とある。
- 2) この調査を行うにあたり、西村公正、町田哲司、馬場美徳、武田千恵子各氏の御協力を得ました。ここに厚く感謝を申し上げる次第です。
- 3) 標準的伝統文法において「関係代名詞の that」とされているものは、正確には接続詞であるとする考え方も存在しており、たとえば、安井稔編『現代英文法事典』(1987) の p. 407 ~ p. 409 には次のような内容のことが述べられている。「Wh 関係詞 who, which は一般に、一定の条件さえ満たせば任意に that と置き換えることができるとされている。しかし、いずれか一方しか許されない場合も少なくない。(中略) 関係詞 that は Wh 関係詞と別種のものであるという見解は、早い時期から述べられている。関係詞 that の特徴には、次のようなものが挙げられている。(例文略) [I] that は非制限節に用いることができない。[II] that の前に前置詞を置くことはできない。[III] that は副詞的な使用が可能である。[IV] that は不定詞と共起できない。[V] 関係代名詞が省略できるのは、that の生起が可能な場合に限られる。これらの特徴から、that は(関係)代名詞ではなく接続詞ないしは関係接続詞であるとみなすことができる(以下略)」。なお、このことに関しては本稿の趣旨とは別次元のことであるので、以後、伝統的文法の枠組みで、「関係代名詞 that」という表現を使用して議論していくこととする。
- 4) たとえば、A. J. Thomson and A. V. Martinet. *A Practical English Grammar*<sup>4</sup> には、先行詞が「人間」の場合は、主格に関して、“who is normally used”とあり、目的格の場合は、whom は “considered

very formal”として、“In spoken English we normally use **who** or **that** (**that** being more usual than **who**), and it is still more common to omit the object pronoun altogether.” (p. 82) と述べている。先行詞が「物」の場合は、**which** か **that** に関して、“**which** is the more formal”とし、“**which** is hardly ever used after **all, everything, little much, none, no** and compounds of **no**, or after superlatives. Instead we use **that**, or omit the relative altogether, if it is the object of a verb.” (p. 83) のように述べている。

- 5) 江川泰一郎『英文法解説』(p. 84) 等参照。
- 6) 『JFK』は1991年の映画で、舞台は1963年のケネディー大統領暗殺の時代であるが、当時に **which** がより多く使われていたことを反映しているのかどうかは今後の検証が必要である。
- 7) 江川泰一郎『英文法解説』(p. 83) 等参照。
- 8) 綿貫陽他『ロイヤル英文法』(p. 645) 等参照。
- 9) 関係代名詞の導入に関して若干述べておく。中学校3年で関係代名詞を学習するわけであるが、平成13年発行の中学校3年用検定教科書6冊(三省堂 *NEW CROWN ENGLISH SERIES 3*、光村図書出版株式会社 *COLUMBUS ENGLISH COURSE 3*、東京書籍株式会社 *NEW HORIZON English Course 3*、教育出版株式会社 *ONE WORLD English Course 3*、開隆堂出版株式会社 *SUNSHINE ENGLISH COURSE 3*、中教出版株式会社 *EVERYDAY ENGLISH 3*)を調査してみた結果、「目的格」の **whom** を掲載しているものは皆無であることが判明した。*COLUMBUS ENGLISH COURSE 3* の p. 51 には、先行詞が「人間」の場合の例として、*They're the students we met at the international school.* および、*They're the students that we met at the international school.* の2文があげられている。しかしながら、高等学校の検定教科書に関しては全く統一性というものは見られない。**whom** を掲載してはいないものもあるが、池田書店 *DAILY ENGLISH COURSE I* は、p. 46 の関係代名詞の一覧表で、先行詞が「人間」の場合の「目的格」として **whom** をあげ、*The doctor (whom) my father visited is very famous.* という例文を載せている。三友社出版株式会社 *NEW COSMOS ENGLISH COURSE I* では、p. 34 の一覧表で先行詞が「人間」の場合の「目的格」を **who(m)** という形で載せているだけで例文はない。教研出版株式会社 *POLESTAR English Course I* では、p. 27 に *She is the writer (whom) I like best.* の例文を載せている。三省堂 *The CROWN English Series I* では、p. 74 に *This is the girl (that / who / whom) I wanted to see.* という例文を載せており、3つのどれを使用してもよいことが示されている。

#### 参考文献

- Biber, Douglas, et al. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman, 1999.
- 江川泰一郎『英文法解説』金子書房, 1991.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press, 2002.

石橋幸太郎他『英語語法大事典』大修館書店, 1966.

伊藤彰浩『共時的アプローチによる英語関係節の習得研究』リーベル出版, 2001.

長原幸雄『新英文法選書第8巻関係節』大修館書店, 1990.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman, 1985.

Thomson, A. J., A. V. Martinet. *A Practical English Grammar*. 4th ed. Oxford: Oxford University Press, 1986.

渡辺登士『英語の語法研究・十章』大修館書店, 1989.

綿貫陽他『ロイヤル英文法』旺文社, 2000.

安井稔編『現代英文法事典』大修館書店, 1987.

## 付録

### 学年別の関係代名詞使用率・省略率

先行詞が「人間」で「目的格」の場合の使用率・省略率

- ① 私が今朝電車で見た人は大きなかばんを2つ持っていた（先行詞が主節の主語）。
- ② 昨日私は私の母がよく知っている隣人に会った（先行詞が主節の目的語）。
- ③ ブラウン氏は皆が尊敬する先生です（先行詞が主節の補語）。

	関係代名詞	大学1年 (75人)	大学2年 (117人)	大学3年 (58人)	大学4年 (27人)	短大1年 (97人)	短大2年 (81人)	合計 (455人)
① 主語	who	14 (18.7%)	27 (23.1%)	18 (31.0%)	6 (22.2%)	20 (20.6%)	16 (19.8%)	101 (22.2%)
	whom	15 (20.0%)	25 (21.4%)	7 (12.1%)	1 (3.7%)	13 (13.4%)	16 (19.8%)	77 (16.9%)
	that	3 (4.0%)	4 (3.4%)	3 (5.2%)	1 (3.7%)	5 (5.2%)	3 (3.7%)	19 (4.2%)
	省略	16 (21.3%)	33 (28.2%)	14 (24.1%)	7 (25.9%)	12 (12.4%)	9 (11.1%)	91 (20.0%)
	その他	27 (36.0%)	28 (23.9%)	16 (27.6%)	12 (44.4%)	47 (48.5%)	37 (45.7%)	167 (36.7%)



② 目的語	who	15 (20.0%)	29 (24.8%)	14 (24.1%)	6 (22.2%)	27 (27.8%)	21 (25.9%)	112 (24.6%)
	whom	30 (40.0%)	48 (41.0%)	20 (34.5%)	7 (25.9%)	23 (23.7%)	23 (28.4%)	151 (33.2%)
	that	8 (10.7%)	5 (4.3%)	7 (12.1%)	1 (3.7%)	11 (11.3%)	8 (9.9%)	40 (8.8%)
	省略	7 (9.3%)	11 (9.4%)	7 (12.1%)	6 (22.2%)	6 (6.2%)	11 (13.6%)	48 (10.5%)
	その他	15 (20.0%)	24 (20.5%)	10 (17.2%)	7 (25.9%)	30 (30.9%)	18 (22.2%)	104 (22.9%)
③ 補語	who	8 (10.7%)	10 (8.5%)	4 (6.9%)	2 (7.4%)	9 (9.3%)	11 (13.6%)	44 (9.7%)
	whom	20 (26.7%)	32 (27.4%)	9 (15.5%)	5 (18.5%)	13 (13.4%)	16 (19.8%)	95 (20.9%)
	that	7 (9.3%)	5 (4.3%)	2 (3.4%)	1 (3.7%)	10 (10.3%)	3 (3.7%)	28 (6.2%)
	省略	6 (8.0%)	10 (8.5%)	3 (5.2%)	4 (14.8%)	6 (6.2%)	6 (7.4%)	35 (7.7%)
	その他	34 (45.3%)	60 (51.3%)	40 (69.0%)	15 (55.6%)	59 (60.8%)	45 (55.6%)	253 (55.6%)

関係代名詞の使用と省略について

先行詞が「物」で「目的格」の場合の使用率・省略率

- ④ トムが私にくれた本は大変役に立つ（先行詞が主節の主語）。  
 ⑤ 私は皆がよく知っている小説を読んでいるところです（先行詞が主節の目的語）。  
 ⑥ これは私が去年ニューヨークで買ったネクタイです（先行詞が主節の補語）。

	関係代名詞	大学1年 (75人)	大学2年 (117人)	大学3年 (58人)	大学4年 (27人)	短大1年 (97人)	短大2年 (81人)	合計 (455人)
④ 主語	which	35 (46.7%)	51 (43.6%)	25 (43.1%)	2 (7.4%)	35 (36.1%)	43 (53.1%)	191 (42.0%)
	that	17 (22.7%)	11 (9.4%)	6 (10.3%)	4 (14.8%)	19 (19.6%)	11 (13.6%)	68 (14.9%)
	省略	15 (20.0%)	40 (34.2%)	17 (29.3%)	11 (40.7%)	15 (15.5%)	9 (11.1%)	107 (23.5%)
	その他	8 (10.7%)	15 (12.8%)	10 (17.2%)	10 (37.0%)	28 (28.9%)	18 (22.2%)	89 (19.6%)
⑤ 目的語	which	25 (33.3%)	44 (37.6%)	21 (36.2%)	7 (25.9%)	32 (33.0%)	33 (40.7%)	162 (35.6%)
	that	17 (22.7%)	14 (12.0%)	6 (10.3%)	5 (18.5%)	17 (17.5%)	11 (13.6%)	70 (15.4%)
	省略	6 (8.0%)	15 (12.8%)	6 (10.3%)	4 (14.8%)	6 (6.2%)	4 (4.9%)	41 (9.0%)
	その他	27 (36.0%)	44 (37.6%)	25 (43.1%)	11 (40.7%)	42 (43.3%)	33 (40.7%)	182 (40.0%)
⑥ 補語	which	46 (61.3%)	75 (64.1%)	34 (58.6%)	10 (37.0%)	55 (56.7%)	58 (71.6%)	278 (61.1%)
	that	21 (28.0%)	19 (16.2%)	11 (19.0%)	4 (14.8%)	23 (23.7%)	14 (17.3%)	92 (20.2%)
	省略	8 (10.7%)	17 (14.5%)	11 (19.0%)	11 (40.7%)	12 (12.4%)	5 (6.2%)	64 (14.1%)
	その他	0 (0.0%)	6 (5.1%)	2 (3.4%)	2 (7.4%)	7 (7.2%)	4 (4.9%)	21 (4.6%)

(いどがき・たかし 短期大学部助教授)